

この度、第二次森内閣の発足に伴い、内閣官房長官・沖縄開発庁長官を拝命いたしました。沖縄をめぐる諸課題は、本内閣においても引き続き重要課題であり、沖縄担当大臣の職責と併せ、沖縄対策を総合的、一体的に推進する任を担うこととなりました。サミット首脳会合が開催されるなど、沖縄県にとって極めて重要なこの時期に、沖縄開発庁長官を拝命いたしましたことは、私にとりて大変な喜びであると同時に、その責任の重さを痛感している次第であります。

政府は、これまで三次にわたる沖縄振興開発計画を策定し、これに基づき平成十二年度予算も含めると総額で約七兆円の国費を投入するなど、沖縄の振興開発のための諸施策を積極的に推進してまいりました。そしてこれらの諸施策と県民の方々の不断の努力とが相まって、本土との格差も次第に縮小するなど、総体として着実に発展しているところであります。

しかしながら、雇用や所得格差の問題、産業振興の推進、さらには普天間飛行場の移設・返還問題をはじめとする米軍基地問題など、沖縄はなお解決しなければならぬ多くの課題を抱えており、沖縄問題の解決は、いわば未だ道半ばであります。森内閣としては、「日本新生」を目指しておりますが、これは沖縄においてはとりわけ「沖縄新生」を意味するものであります。間近に二十一世紀を

## 就任ご挨拶

内閣官房長官・沖縄開発庁長官

なか がわ ひで なお  
中 川 秀 直

臨むというこの節目の時期にあつて、沖縄の明るい未来の開拓に貢献すべく、県や市町村との連携、協力のもとこれらの課題解決に全力を挙げて取り組んでまいりたいと考えております。また、沖縄におけるサミット首脳会合の開催は、二十一世紀における沖縄の飛躍に向けた大きな二歩になるものと確信しており、県民の皆様のご理解と県及び地元自治体の引き続きの御協力を得て、最後まで気をゆるめずに臨む所存であります。

沖縄開発庁としては、今後とも第三次沖縄振興開発計画を着実に推進するとともに、引き続き本土との格差を是正し、自立的発展のための基礎条件が逐次整備されるよう努力してまいります。

特に、沖縄の豊かな自然環境と独特の歴史や伝統文化など観光資源を有機的に関連させ、観光、リゾート産業の充実発展を図ること、豊かで優秀な人材を生かし、各種振興地域制度等の諸制度を最大限活用し、情報通信産業等特色ある産業の振興を図ること、我が国とアジア・太平洋諸国との交流の拠点となるべく、地理的特性を生かした南の交流拠点の形成を図ることなどを振興開発施策の柱と位置付け、沖縄の特性を生かした施策の展開を図っていくべきだと考えております。

ところで、来年一月の中央省庁再編にあたっては、現行の沖縄開発庁と内閣官房の一部を統合し、

内閣府に沖縄対策の担当大臣を置き、沖縄対策部局を設置することとしております。また、現地の沖縄では、沖縄総合事務局をそのまま置き、現行の機能を継続することとしております。したがって、中央省庁再編後の沖縄対策の推進体制は更に充実するものと考えております。とりわけ、沖縄総合事務局は、沖縄における国の総合出先機関として、県民の身近な機関として振興開発の業務を総合的、一体的に遂行するものであり、沖縄県民の期待も極めて大きなものがあります。職員もこのような総合事務局の任務を十分認識し、県民になお属親しまれるよう努力されることを期待するものであります。

私事ながら、私は代議士を志す前に新聞記者として七年間を過ごしましたが、沖縄返還を控え重要なかつ難しい局面にあつた総理府を担当し、後に沖縄開発庁長官に就任された山中総理府総務長官と沖縄の今後の在り方を真剣に議論させていただいた経験がございます。二十一世紀の扉が開く直前のこの時期に沖縄開発庁長官を拝命したことは少なからぬ因縁を感じているところであります。

私としては、山中初代長官から青木前長官に至る歴代長官の沖縄に対する溢れんばかりの情熱、熱意をしっかりと引き継ぎ、県民の方々と喜びも悲しみも分かちあつて全力を尽くす覚悟であることとを申し上げて、御挨拶いたします。